

令和4年度 結果の分析及び今後の改善策

(中間・最終)

仁方中学校区 校番1 仁方中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))																		
***	○主体的に学び、思考力・表現力を育てる。	生徒が主体的に学び考える授業の創造 基礎学力の向上と学習習慣・読書習慣の確立	○自分から積極的に授業を受けている(94.7%)、「できた」「わかった」と感じる(90.8%)、進んで学習に取り組んでいる(86.2%)など、主体的に学習に取り組み学習への意欲を感じている。 ○しかしながら、自分の考えや疑問・思いを記述している(77.2%)、自分なりの学習の仕方がある(72.3%)など、創意工夫した学習の取組について課題が残っている。 ○全国学力・学習状況調査の通過率は国語68%(県69%)、数学41%(県50%)、理科48%(県49%)と、いずれも県平均を下回る結果だった。計算力・漢字力・文章を読み取る力など、基礎的な学力の定着に課題がある。 ○「自分の考えや意見を伝えたり説明したりする力」「学習内容を活用しながら日常生活の場面と関連付けて考える力」などを伸ばす必要がある。	○授業での「振り返りシート」での個々の生徒の考え・疑問を教師が汲み取り、次の授業で紹介し評価するなどして全体へ広げることを取り返すことで、振り返りにおける生徒の思考の深まりを促す。 ○「毎日ノート」の工夫点・めあて・振り返り等の良いものを、学級また全体で紹介し、個々の高まりや深まりを図っていく。 ○コグトレ(認知機能トレーニング)を継続すると共に、全学年で小グループでの補充学習(国語・数学・英語)に取り組むことで基礎学力の向上を図る。また読書活動の充実を図る。 ○確認された課題(説明する力・活用する力)を全教科で意識しながら授業改善を進めていく。																		
**	○自らを律し、他人を思いやる豊かな心を育む。	自己肯定感と集団適応感の向上 規範意識の向上と豊かな心の育成	○自律的縦割り集団活動では、体育大会での紅団・白団に分かれての「ソーラン節」に全校生徒が取り組んだ結果、生徒・保護者ともに肯定的評価の目標値90%を超えることができた。 ○リーダーを中心に練習内容から計画し、異学年が協力して仕上げたことが全体として数値に反映されたが、個人に焦点化すると、自己肯定感や学級適応感に課題が残る。 ○N中メソッドや無言清掃については、生徒による自己評価は目標値を達成しているが、保護者・教職員の評価は、わずかだが目標値に達していない。 ○現状に満足することなく、レベル4の挨拶「①立ち止まって②大きな声で③目を見て④笑顔で」、「はい」という返事、無言清掃での「+αの掃除」、来客への挨拶や対応など、さらに1つ上のレベルの礼節・所作・規範意識を意識させたい。	○学級単位で取り組む仁音祭での合唱コンクールを軸として、自己肯定感や学級適応感を高められるような集団づくりを推進する。 ○総合的な学習の時間での自己表現活動の発表を学年の枠を超えて行い、他学年の発表からお互いに学び合う活動を仕組んでいく。 ○自己評価の肯定的評価が高いことや、来客者からも高い評価を得ていることを伝え、生徒の自己肯定感の向上につなげる。 ○その上で、さらに上のレベルの目標を提示し、委員会などを中心に月ごとに目標を持たせ、更なる礼節・所作・規範意識の向上を図っていく。																		
*	○たくましい体を育成する。	生徒自らが主体的に取り組む体力の向上 心身の健やかな発育と防災教育・安全教育の充実	○ハンドボール投げでは全学年男子と3年女子が県平均を上回った(達成率66.7%)が、シャトルランは県平均を上回ったのは3年女子のみ(達成率16.7%)という結果だった。 ○新型コロナウイルス感染症の影響・気温の高さ等の要因が考えられ、これらは全県同じ条件である。仁方中学校として基礎的な体力低下傾向の改善に向けて取組を進めて行かなければならない。 ○7月4日～8日を仁方中防災週間として、GT招聘による防災学習や各教科での防災に関する授業実施するなど、防災学習を集中して展開した。 ○生徒の肯定的評価は、県防災教室93.6%、日赤救急法講習会95.1%、自衛隊出前防災講座97.2%、熱中症授業98.9%。全体的に正しい知識を得ることができたと回答した生徒は98.4%だった。どの取組でも真剣に取り組む生徒の姿が見られた。課題は、防災意識の継続及び実践への取組である。	○12月に再実施する体力テストを目標に、補充学習の一環として体力向上に取り組ませていく。補強トレーニング等を計画的に行い基礎的な体力の向上を図る。 ○呉チャレンジマッチスタジアムについて、クラス単位で上位入賞を目指して取組を進めていく。 ○11月2日に実施される「広島県『みんなで減災』一斉地震防災訓練」に参加し、大規模地震の発生を想定した避難訓練を実施する。 ○避難訓練の内容は、生徒指導部で企画し、「コロナ禍での災害対応」を基本にして想定を工夫するなどし、1学期の取組を振り返らせることで生徒の意識の向上を図る。																		
業務改善	○教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備する。	組織的な業務改善の推進	<table border="1" data-bbox="540 1896 1068 1961"> <thead> <tr> <th colspan="6">時間外勤務45時間を超える教職員の割合</th> </tr> <tr> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>73%</td> <td>47%</td> <td>47%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>○年度初めと行事等が重なる5・6月の時間外勤務が多い。4月に異動が多くあったこと、コロナ禍にあっても感染症対策をしながら行事への積極的に取り組んだことが要因として挙げられる。 ○「生徒と向き合う時間が確保されていると感じる教職員」の肯定的回答の割合は64.0%。計画的な時間割の作成と会議の精選に取り組んでいるが、今後もスクラップ&ビルドを図る必要がある。</p>	時間外勤務45時間を超える教職員の割合						4月	5月	6月	7月	8月	9月	73%	47%	47%	20%	0%		○会議の精選をはかる。タブレットの活用することで、必要な範囲で会議や研修のペーパーレス化をさらに進める。 ○行事予定などを早めに確認し、何をいつまでに準備するのかを見える化するなどして、個々の職員のタイムマネジメント力を高め、見通しとめ切を決めた仕事をする。 ○授業数が日によって偏らないよう、全体のバランスをみて、作成する。
時間外勤務45時間を超える教職員の割合																						
4月	5月	6月	7月	8月	9月																	
73%	47%	47%	20%	0%																		